

風のように

甘木教会



主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一

さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。
「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである。

今飢えている人々は、幸いである、あなたがたは満たされる。
今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる。」
ルカによる福音書 6: 20－21

【説教要旨】

教会は殉教した人を記念として全聖徒の日を守っていましたが、後にキリストに繋がって、天に召された人を偲んで礼拝を守るようになりました。11月1日を全聖徒の日、その日に近い11月の主日を全聖徒主日として守っています。東京にいるときは、公共交通機関が発達していますから、この季節には、1日の早朝から青山墓地から始まり、小平霊園に多くの信徒が眠られていますから教区の合同礼拝、教会の創立者が眠る宣教師、横浜外人墓地、碑文谷のカトリック教会の納骨堂に、最後は私が尊敬していたT姉の教区の横浜墓地で終わりました。残念なことは、甘木教会の方々のところには車が必要で祈りをささげられずにいます。

今回、病気をして、死をいつも意識して生きるようになりました。長男を呼び、葬儀の件、家内へ残した僅かばかりの財産、不動産の件、死後に家内が生活できるように年金のことを託しました。また一緒に本を整理していきました。

そんなことをしながら、自分の人生を振りかえり、どうしようもない私に神は目を留めてくださったという幸いを感じてい

ます。こんなに幸せを感じる日々はありません。

今日の聖書箇所は、ルカによる福音書は「幸いなるかな、貧しい人」と伝えていますが、マタイによる福音書は「幸いなるかな、心の貧しい人」となっています。貧しさをいやというほど体験した私には貧しいことがどうしても幸いだと言えません。

「幸いなるかな、悲しんでいる人」とも決して言えません。貧しくあるよりも金がある方が良いでしょうし、悲しむよりも喜びの方がどんなに良いのでしょうか。金があり、喜んで笑っている方が、私たちは幸せだと思います。では、イエスさまはなぜ、このように私たちが願うものとは違う幸せを語ったのでしょうか。

ネメシェギ司祭はこの箇所で、「幸いである、悲しむ人々は。／その人たちは慰められる。」という後半の部分に注目して次のように指摘しています。「各文の動詞が、ただ受身形で『慰められる』などのようになっています。イエスは、ここで『神』という言葉をはっきりと使うよりも、受身の動詞で神の働きを表した当時のユダヤ人の習慣に従って、語っておられます。イエスのこの言葉を聞いた当時の人々には、このような動詞が神の働きを表していることがすぐに分かりました。・・・つまり、イエスがあの八種類の人々を幸いと呼んでいるのは、彼らが神と直接的に一致させられるからです。・・・そこに神ご自身が入り、人をご自分と結びつけてくださるのです」今日の福音書の箇所は、イエスさまの平地の説教と言われています。神は、イエス・キリストは、天からこの平地まで下って、私たち一人一人の歩みにじかに入ってこようという神の強い意志があります。イエス・キリストが弟子の中に入られ、弟子と結ばれたように、私たちの内にイエス・キリストが入られ、結ばれ私たちの人生の歩みは幸いとなり、幸いなのです。

私たちにとって不幸だと思われること、この時間、空間に「神ご自身が入り、人をご自分と結びつけてくださるのです」ゆえに、貧しさも、悲しさも幸いだと語るイエスさまの言葉に私たち信仰者はうなずけるのです。さらに私たちは心から貧し

さも、悲しみも、神の働られる時、場所、恵みと受け入れていくのです。天に帰られた方々を振り返ってみる時、それぞれの歩みがありました。私たちは、貧しさに、悲しみに打ちのめされる存在かもしれませんが、しかし、神ご自身が私たちの内に入り、私たちをご自分と結びつけてくださるのです。これを信仰において、受け留めて、天に帰られた一人一人も生き、私たちも生きているゆえに私たちキリスト者は、聖徒とされ、聖徒であります。たとえ短い、小さな命を生きたものであっても、その命を長く生きた者であっても、神ご自身が入り、人をご自分と結びつけてくださった神と共に生涯を生きた聖徒であります。おびただしい証人、聖徒とともに、今、私たちは、ここで礼拝を守り、またこれからの未来も守っていくのです。

キリスト教会成立から今まで、天に帰られたおびただしい主の証人とともに、「**今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる。**」という幸いと他の七つの幸いをいただく者として私たちもここにいるのです。

愛唱讃美歌に次の讃美歌を選んでいきます。

人生の海の嵐に もまれて来しこの身も
不思議なる神の手により 命拾いしぬ
いと静けき港に着き われは今 安ろう
救い主イエスの手にある 身はいとも安し

「救い主イエスの手にある 身はいとも安し」を「救い主イエスの手にある 身はいとも幸い」ともいうことが出来ます。

私たちは天に帰られた一人ひとりを偲びつつ、一人ひとりに働かれた神の恵みに結び合わされた業を数え、私たちも天に帰る日を待ち望み、主の幸いのうちを歩む者であるという信仰を与えられ、感謝しつつ、最後の日まで、預言者イザヤの言葉を私たちの言葉として歩みを強めていきましょう。

どこまでも主に信頼せよ、主こそはとこしえの岩。イザヤ26:4

牧師室の小窓からのぞいてみると



アメリカでは、ハローウィンの祭りはクリスマス、復活日とならぶ大きな祭りが輸入され日本では、商業化されたハローウィンの行事が定着しつつある。

ハローウィンは、10月31日の夜から始まり、これにつられて5月に行われていた全聖徒の日が11月1日に変わった。この祭りは、アメリカで変容し、日本に輸入され、商業化され、凄まじいほどの異文化吸収とその意味を全く無くして日本化していく日本文化の姿を示している。子供らが仮装してキャンデーをもらいに行くだけの楽しい行事になり、この後日、日本のお盆にあたる全聖徒の日があるなど誰一人知らないだろう。「ハロウィーン (HALLOWEEN) は、教会の諸聖人の日 (全聖徒の日) の前夜に行われる伝統的行事である。諸聖人の日の旧称 "All Hallows" の eve (前夜祭) であることから、Halloween と呼ばれるようになった」などはどうでも良いのであり、意味をまったく腐らして日本的に変えていく。日本という国は本当におもしろい国である。日本を沼だと例えた芥川龍之介は、沼は何でも飲み込み、飲み込まれるものは腐り、まったく違うものが出来上がっているといった。日本沼はグローバル化、情報供給が多くなされていても、変えることなく健在である。



園長・瞑想？迷走記

長く園長をされていた方が入院された。その病院に卒園生がいて、訪ねてきてくれたという話をよく聞く。

私たちは、子どもたちと日々接していると、その時の子どものことしか見えないが、子どもが、青年になり、大人になっていくということを想像できない。しかし、今こそが、青年になり、大人になっていくこの過程を作っていることを忘れてはいけないと思っている。大切な今を子どもらと歩んでいる。

日毎の糧

聖書：ハレルヤ。新しい歌を主に向かって歌え。

主の慈しみに生きる人の集いで賛美の歌をうたえ。

詩編149：1



ルター言葉から

音楽は不安な人には最大の慰めである。その人がたとえほんの少ししか歌えないとしても。

『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

讃美しよう

ルーテル教会は、歌う教会という。ルターは、多くの人が神から愛されているということ（福音）を伝えるために、自国語で、歌える多くの讃美歌を作った。作曲が間に合わず、皆が知っていた恋の歌などに、福音の詩をつけて讃美歌を作っていたという。音楽は、最大の慰めというのである。

アメリカ人宣教師・A. L. ハウ（Hawe, Annie L: 1852-1943）は、ハウ来日の時期に当時の神戸に、開園した私立兵庫幼稚園と私立神戸幼稚園があり、幼稚園教育を始めていた。ハウはその教師たちのためにフレーベルの教育遊具（恩物）の指導や幼児の歌を紹介した。ハウが展開したフレーベリズムは、形式、理論そして方法の紹介だけではなく、フレーベルのキリスト教への深い信仰に基づく教育理念も伝えられたのである。このようなハウの幼稚園教育では、保育の目的として5項目が掲げられた。その一つに「神から与えられた賜物である音楽に対する真の感情を養うこと。」がある。（子どもの非認知能力の育みを支える実践的教育に関する一考察—キリスト教保育・音楽の視点から— 國光みどり 豊岡短期大学論集 第19号）

詩人も困難なイスラエルの歴史の中で、音楽を忘れてはいけなと詠う。「ハレルヤ。新しい歌を主に向かって歌え。主の慈しみに生きる人の集いで賛美の歌をうたえ。」と。

祈り：私たちに詠う力をくださる主に感謝します。アーメン。

甘木通信

「我、腸（はらわた）、かれの為に痛む」エレミヤ書31：20

愛唱讃美歌から

私の好きな聖歌498番がある。しかし、私の葬儀のときに使えない。一番の歌詞が、ルーテル子の私の信仰と違うのである。「1. 主にすぎる我に 悩みはなし」という歌詞である。いつも罪人である私たちは悩み深いものであるが、神の御許にかえる（悔い改める）ことにより、悩みを負う者とされるというのが私たちの信仰である。

1. 主にすぎる我に 悩み深し
十字架の御許に 荷を下ろせば
歌いつつ歩まん ハレルヤ！ハレルヤ！
歌いつつ歩まん この世の旅路を



信仰を与えられた（普通は持ったと表現）と言っても、悩みは消えるものではない。むしろ、信仰を与えられたゆえに深い悩みを持ち続ける。

森一弘司教は、「宣教（信仰生活）の現場は、私たち司祭（信徒も含め）がどんな無力な存在であるかを否認なしに、教えてくれる（開かれた教会づくりをめざして 宣教日記 森一弘著 中央出版）」と表現する。預言者エレミヤは31章21節で新共同訳は「彼のゆえに胸は高鳴り」とありますが、文語訳は「我、腸（はらわた）、かれの為に痛む」です。

「痛む」という言葉を使っています。神もまた、信仰から離れ、苦しんでいる民を裁かれなければならないことを「痛む」と表現している。神の痛みがキリストの十字架である。

司教は、「こうした重く悲しい現実に関心し、それを背負い、共に苦しめたのが、キリストではなかったか。」

愛唱讃美歌は、信仰の生活の姿を映し出す。

（甘木日記）土）日善幼稚園は運動会。疲れていたが夜に甘木に向う。泊。日）宗教改革記念日の礼拝後、愛餐会。自慢のおでんを食べながら私たちの教会の誕生日を祝い、インドネシアの青年の帰国の送別会も兼ねる。夜、大阪。月）「全国私立幼稚園園長会研修会」に水戸へ。火）信徒の朋を訪問して福岡に。水）幼稚園・職員会議木）松崎保育園で聖書の学び、礼拝をして、甘木教会、日前幼稚園へ。金）宗教改革日礼拝。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
ぐちらない聖人（牧師）もいます。



土）日善幼稚園の運動会が終わり、夜に甘木に行くが流石、体力がなく疲れている。

YouTube で、養老孟司さんの講演を聞く。多くの共感と示唆を受けた。**日）**宗教改革記念日の礼拝後、帰国するインドネシアの青年の送別会も兼ね愛餐会。自慢のおでんを食べながら、楽しい時間を過ごす。インドネシアの

青年は帰国後、大学に入りなすという。学びが祝されますように。私たちの教会の誕生日を祝った。夜、大阪に向かい長男の所に泊まる。**月）**大阪から水戸へ。「全国私立幼稚園園長会研修会」に。園長になり、出来るだけ参加し、多くの示唆を与えられた研修会であった。今回の基調講演は生きる力をいただく。**火）**研修の分科会を間違えたが、これがまた勉強になった。研修後、茨木の信仰の朋と会い、飛行機で福岡に帰る。今回も、参加費だけ出していただき、あとは自腹。もう老いて学んでも幼稚園に貢献できないだろうと思う。しかし、責任がある以上、勉強は最後まで続けなければ思う。自腹（水戸でチャンポン・絶品）➡



で参加出来る歳になった。「園だより」の最終チェック、これを英語とタガログ語に変換すると翌日の2時。こんな動きをしていえ自分が病気なのか不思議に思う。生かされていると感じる。**水）**日善幼稚園の空き地に作ったサツマイモの畑の収穫の準備に蔓を切る。園児が「いもの蔓をまた食べたい」と言っていたのを思い出し、蔓をとって、きんぴら風・茎の料理を作る。幼稚園の職員会議後、議事録案を作り、皆と退園。帰宅し、日曜日に行われる役員会への幼稚園報告を作っていると夜中の1時。気力も回復し始めたのか。**木）**流石に眠たい。松崎保育園の「聖書の学び」、「こども礼拝」で、ルター、ルーテル教会の話をする。久しぶりに甘木教会へ車で送っていただく途中にコスモス畑に寄ってくださる。花壇の手入れをする。赤紫蘇を引き抜き、紫蘇の実を醤油漬けする準備。片付けしている日善幼稚園に行こうとするが、苦手で、分は邪魔だろうから終わりの夕刻に幼稚園に行く。保育、大掃除をした先生方に石垣島のチョコを届ける。今日も帰に車で送っていただき感謝。



金）夜、宗教改革記念日礼拝をする。大学以来、ルターを追ってきた。